

授業科目	*フィジカルアセスメント技術演習				単位	1		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11207J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-2			
担当教員	小田 日出子、隅田 由加里、金山 正子、石井 奈央							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>ヘルスアセスメントすることの意義・目的を理解したうえで、看護の対象の身体状態を把握するために必要なフィジカルアセスメント技術について、実践の根拠となる基礎的知識とともに学修する。</p> <p>授業は講義と技術演習を並行して進行する。特にスクリーニングの基本となる「バイタルサイン測定技術」については、看護基本技術の習熟度を確保する目的で、実技試験を実施する。実技試験を実施することで、基本的な看護の実践能力育成と強化を図る。</p> <p>実務家教員として、医療の現場で実践してきた臨床看護技術の前提となる看護の基本技術の習得に向けて、その前提となる基礎的知識の確認・理解・定着を図るとともに、看護の対象者の安全・安楽・自立の尊重を原理・原則とする看護の基本技術の習得を支援する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザムのそれぞれの意味と関係性を説明できる。 Head to Toe の原則に則り、全身を概観する必要性が説明できる。 呼吸器系、循環器系、消化器系、感覚・中枢神経系、および筋・骨格器系のフィジカルアセスメントの前提となる基礎的知識を述べるができる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 学んだ知識・技術を活用し、対象者の身体状態を論理的に思考・判断できる。 身体面における健康上の課題を導き出すことができる。 <p>【態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護の対象の状態把握に必要なフィジカルアセスメント技術を、実践の根拠となる基礎知識とともに修得しようとする姿勢を身につけている。 安全・確実に対象者のバイタルサイン(T・P・R・BP)を測定しようとする姿勢を身につけている。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	0	10	10	0	20	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	60						60	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10				10	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)				10			10	
態度(DP4-2)						20	20	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				

<p>【知識・理解】</p> <p>1.ヘルスアセスメントとは何かについての的確な説明ができる。</p> <p>2.ヘルスアセスメントに必要な5つの基本的技法(問診・視診・聴診・打診・触診)を挙げ、実施上の留意点を全て記述できる。</p> <p>3.Head to Toe の原則に則って全身を概観する必要性を的確に記述できる。</p> <p>4.系統別フィジカルアセスメントのうち、呼吸器系、循環器系、腹部、感覚-神経系および筋・骨格器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎的知識を、「事前学習」として学修ポートフォリオに記録・整理できる。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>1.事例の身体状態を論理的に思考・判断し、考えられる健康上の課題を全て記述することができる。</p> <p>【態度】</p> <p>1.身体状態の把握に必要なフィジカルアセスメント技術を、実践の根拠となる知識と関連づけながら学修する姿勢を身につけている。</p> <p>2.課題に積極的に取り組み、自ら考え、学びを深めようとする主体的な姿勢を身につけている。</p> <p>3.バイタルサイン(T・P・R・BP)の測定が安全・確実に行えている。</p> <p>4.学修ポートフォリオの作成に誠実に取り組んでいる。</p> <p>5.社会人としての基本姿勢(時間や約束を守る、ルールを守る等)を身につけている。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>1.ヘルスアセスメントとは何かについて述べるができる。</p> <p>2.ヘルスアセスメントに必要な5つの基本的技法(問診・視診・聴診・打診・触診)を挙げ、実施上の留意点を述べるができる。</p> <p>3.Head to Toe の原則に則り、全身を概観する必要性が説明できる。</p> <p>4.系統別フィジカルアセスメントのうち、呼吸器系、循環器系、腹部、感覚-神経系および筋・骨格器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎的知識を述べるができる。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>1.事例の身体状態を論理的に思考・判断し、考えられる健康上の課題を1つ挙げるができる。</p> <p>【態度】</p> <p>1.身体状態の把握に必要なフィジカルアセスメント技術を、実践の根拠となる知識に基づいて学修しようとする姿勢がみえる。</p> <p>2.課題に積極的に取り組み、自ら考え、学びを深めようとする姿勢がみえる。</p> <p>3.バイタルサイン(T・P・R・BP)の測定が正確に行える。</p> <p>4.学修ポートフォリオの作成に誠実に取り組んでいる。</p>
---	---

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>講義:ヘルスアセスメント概説 (講義:小田日出子)</p> <p>1.用語の定義(ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザム)</p> <p>2.ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザムの関係性</p> <p>3.対象者の全体を概観する目的・方法・必要性</p> <p>4.系統別フィジカルアセスメントの意義・目的</p> <p>5.心理・社会状態のアセスメント</p>	<p>本授業は、1回2コマの授業6回(12コマ)+1コマの授業1回、および実技試験を含む1単位の必修科目であり、技術演習を中心とする科目である。</p> <p>初回は、授業進行表を用いて科目概要を説明した後、「ヘルスアセスメント」に関する総論的講義を行う。</p>	<p>【予習】</p> <p>・テキスト:系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 1 第2章 ヘルスアセスメント A.~C.を読んでくる。</p> <p>【復習】</p> <p>・課題プリントにに取り組む。</p> <p>・学んだ知識の蓄積とフィジカルアセスメント技術の実践・活用に繋がられるように「学修ポートフォリオ」を作成する。</p>	<p>【予習】</p> <p>50分</p> <p>【復習】</p> <p>100分</p>
2	<p>(講義:小田日出子/演習:基礎看護学分野担当教員・助教・助手・外部講師)</p> <p>講義:全体の概観</p> <p>1.フィジカルアセスメントに必要な技術</p> <p>2.全身状態・全体印象の把握</p> <p>3.バイタルサインの観察とアセスメント</p> <p>・バイタルサインの定義</p> <p>・バイタルサインを観察する意義・目的</p> <p>・バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧・意識)の観察に関する基礎知識</p> <p>演習:バイタルサインの観察とアセスメント</p> <p>1.「生きている」ことのアセスメント</p>	<p>前回授業の振り返りを行った後、全体の概観に必要なフィジカルアセスメント技術について、主に③バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸)の観察とアセスメントを中心に、小講義→技術演習の流れで授業を進める。次に、バイタル</p>	<p>【予習】</p> <p>・看護形態機能学;血圧、血圧調節のメカニズム、血圧の変動要因など、血圧測定に関わる生理学的知識の復習を行う。</p> <p>・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。</p>	<p>【予習】</p> <p>50分</p> <p>【復習】</p> <p>100分</p>

	<p>2.体温・脈拍・呼吸(T・P・R)の観察 3.体温・脈拍・呼吸(T・P・R)のアセスメント 4.パルスオキシメーターによる経皮的動脈血酸素飽和度(SPO2)の計測 5.血圧(BP)測定技術(触診法/聴診法) 6.血圧(BP)値のアセスメント</p>	<p>サインの観察とアセスメントのうち、「血圧」の観察とアセスメントについて、小講義→技術演習(触診法/聴診法の流れ)を軸に授業を進める。演習では「バイタルサイン」の測定方法全般を学修する。</p>	<p>・Google Classroom:フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示された「血圧」の技術手順書および参考資料(フローシート(経過記録)の記載方法)を読んでおく。 【復習】 ・演習記録の整理と振り返り ・課題プリントに取り組む ・学修ポートフォリオの整理</p>	
3	<p>(講義:小田日出子/演習:基礎看護学分野担当教員・助教・助手・外部講師) 講義:系統別フィジカルアセスメント-1 1.ケアに繋げるフィジカルアセスメント 2.呼吸器系のフィジカルアセスメント ・呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的 ・呼吸器系の基礎知識 演習:呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 ・胸部基準線の確認 ・問診・視診・触診・打診の方法 ・呼吸音(正常呼吸音)聴取の方法 ・呼吸(息をする)のアセスメント</p>	<p>「呼吸器系のフィジカルアセスメント」に必要な基礎知識を確認し、呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的を説明した後、実際の観察方法を演習する。演習では、骨格模型を用いて①胸部の基準線を確認するほか、呼吸器系の実際の観察方法について、DVD(呼吸器のアセスメント-その1、その2-)を視聴した後、②問診・視診・触診の方法を演習する。また、シミュレーター(Mr.Lung)を用いて③正常呼吸音聴取の方法を学ぶ。</p>	<p>【予習】 ・看護形態機能学;呼吸器系について、呼吸器の構造と機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。 ・Google Classroom;フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示したフィジカルアセスメント技術「呼吸音の聴取」の技術手順書を読んでおく。 【復習】 ・演習内容の整理と振り返り ・課題プリントに取り組む ・学修ポートフォリオの整理</p>	<p>【予習】 50分 【復習】 100分</p>
4	<p>(講義:小田日出子/演習:基礎看護学分野担当教員・助教・助手・外部講師) 講義:系統別フィジカルアセスメント-2 1.循環器系のフィジカルアセスメント ・循環器系のフィジカルアセスメントの目的 ・循環器系の基礎知識 演習:循環器系のフィジカルアセスメントの実際 ・心臓の解剖学的位置の確認 ・心基部、心尖部の位置の確認 ・心尖拍動の触知部位と拍動(振幅)の確認 ・問診・視診・触診・打診の方法 ・脈拍・心拍同時測定 ・心臓の大きさの推定(心臓スクラッチテスト) ・正常心音聴取の方法 ・循環(めぐり)のアセスメント</p>	<p>「循環器系のフィジカルアセスメント」に必要な基礎知識を確認し、循環器系のフィジカルアセスメントの目的を説明する。演習では、骨格模型や心臓模型を用いて①心臓の解剖学的位置を確認した後、前回学習した胸部の基準線を用いて②「心尖拍動」の触知部位を同定する。学生は自身の「心尖拍動」部位と触知を確認する。また、DVD</p>	<p>【予習】 ・看護形態機能学;循環器系について、心臓の構造と機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。 ・Google Classroom:フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示したフィジカルアセスメント技術「心音の聴取」の技術手順書を読んでおく。 【復習】 ・演習内容の整理と振り返り ・課題プリントに取り組む ・学修ポートフォリオの整理</p>	<p>【予習】 50分 【復習】 100分</p>

		<p>(循環器のアセスメント)の視聴により ③問診・視診・触診・打診の技術、④心臓スクラッチ法による心臓の大きさの推定方法、⑤脈拍・心拍同時測定の方法および⑥心音聴取の方法等、循環器系の観察の実際を学ぶ。その他、教員によるデモンストレーション、シミュレーターの活用、また、COVID-19 感染防止策を徹底した中で、学生間での体験的学習の機会を取り入れながら、「心尖拍動」部位の蝕知、正常心音の聴取、また正常心音のⅠ音とⅡ音の聞き分けや聴取部位による音の聞こえの違いについて学習を深める。</p>		
5	<p>(実技試験:基礎看護学分野担当教員・助教・助手・外部講師) フィジカルアセスメント技術演習:実技試験 「臥床患者のバイタルサイン測定技術」</p>	<p>事前に配布し・説明したバイタルサイン測定技術の実技試験「実施要領」に則り、科目履修者全員を対象に「臥床患者のバイタルサイン測定技術」の実技試験を実施する。</p>	<p>【事前の「自主演習」の進め方】 1.実技試験の実施要領、実技試験の課題(患者状況設定)、技術手順書に記載された手順の根拠等を参考に、また、自主練習に関する諸注意をよく理解したうえで、自主的・積極的に「バイタルサイン測定技術」の習得に向けた練習に、計画的に取り組む。 2.看護技術の習熟度を上げるには、何より日々の鍛錬が大事と考え、努力を惜しまない。 3.事前に提示した「技術評価表」の「評価の視点」を参考に、安全・確実なバイタルサイン測定技術の習得を目指して、繰り返し練習する。 4.自ら進んで教員に助言を求める。 【実技試験終了後の課題】 1.「バイタルサイン測定技術」技術評価表の評価の視点に沿って、自ら実施した技術を客観的に評価する。</p>	<p>可能な限り自主練習の時間を確保し、各測定技術の評価基準に到達できるように、また、看護における「観察」の基本となる「バイタルサイン測定技術」を確実に習得できるように、各自、技術練習に励んでください。</p>

			2.当日配布する「自主学習課題」のプリントに取り組む。終了後の課題用紙は、学修ポートフォリオに綴じておく。	
6	<p>(講義:小田日出子/演習:基礎看護学分野担当教員・助教・助手・外部講師)</p> <p>講義:系統別フィジカルアセスメント-3</p> <p>1.腹部のフィジカルアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹部のフィジカルアセスメントの目的 ・腹部の基礎知識 <p>演習:腹部のフィジカルアセスメントの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹部の名称(体表区分)と位置の確認 ・問診・視診・触診・打診の方法 ・腹部の聴診法(腸蠕動音の聴取法) ・肝臓の大きさの推定(肝臓スクラッチテスト) ・腹部(食べる・廃棄する)のアセスメント 	<p>腹部のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識、腹部のフィジカルアセスメントの目的を説明した後、実際に腹部の観察方法を演習する。</p> <p>演習では、人体模型を使って腹部臓器の名称と位置の確認を行った後、スライドを用いて①腹部の体表区分(4分法・9分法)を説明。その後、DVD(消化機能のアセスメント)を視聴し、③問診、③口腔・咽頭のアセスメント、④腹部のアセスメント;視診・聴診・打診・触診の技術と⑤腹水の評価について学習する。学生は演習の流れに沿って、実際に互いの腹部に聴診器を当て、「腸蠕動音」の聴取を行ってみる。</p> <p>また、打診の変法である⑥肝臓スクラッチテストにより肝臓の大きさを推定する。肝臓スクラッチ法については、モデル人形を用いた教員のデモンストレーションにより理解を深める。</p>	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護形態機能学:消化器系について、消化器官の構造と機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。 ・Google Classroom:フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示したフィジカルアセスメント技術「腸蠕動音の聴取」の技術手順書を読んでおく。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組んだ演習課題の整理と学習のまとめ ・Google Classroom:フィジカルアセスメント技術演習内に掲示した課題に取り組み、学修ポートフォリオに綴じておく。 ・授業を振り返って確認できたことや理解が深まったこと、新たに獲得できた知識などは、「自主学習記録」として学修ポートフォリオに綴じておく。 	<p>【予習】</p> <p>50分</p> <p>【復習】</p> <p>100分</p>
7	<p>(講義:小田日出子/演習:基礎看護学分野担当教員・助教・助手・外部講師)</p> <p>講義:系統別フィジカルアセスメント-4</p> <p>(※講義:1コマ100分:小田日出子)</p> <p>1.感覚-神経系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚-神経系のアセスメントの目的 ・神経系の基礎知識 <p>2.神経系のアセスメントとしての確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識状態 	<p>感覚-神経系のフィジカルアセスメントの目的と方法、アセスメントに必要な基礎知識を中心に講義を行う。フィジカルアセスメントの具体的方法については、スライドおよびDVD(視感覚機</p>	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護形態機能学:感覚器と神経系について、それぞれの構造と機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。 	<p>【予習】</p> <p>50分</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸パターン ・対光反射・瞳孔の大きさ・左右差 ・高次脳機能障害 <p>3.感覚のフィジカルアセスメントー脳神経</p>	能のアセスメント、高次脳機能のアセスメント)の視聴により説明を補足する。		
8	<p>(講義:小田日出子/演習:基礎看護学分野担当教員・助教・助手・外部講師)</p> <p>講義:系統別フィジカルアセスメント-5</p> <p>1.筋・骨格系のフィジカルアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 ・筋・骨格系の基礎知識 <p>演習:筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診・視診・触診・打診の方法 ・計測(四肢長、周囲径) ・筋力の評価法(徒手筋力検査;MMT) ・関節可動域(ROM)の計測 ・運動機能(歩行)、平衡機能、小脳機能等の評価法 ・運動(動く)のアセスメント <p>まとめ</p>	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識、筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的を説明した後、実際に、四肢の計測(四肢長、周囲径の計測)、筋力評価のための徒手筋力検査(MMT)および関節の可動性評価のための関節可動域測定(ROM)の方法について、教員のデモンストレーションとDVD(運動機能のアセスメントーその1・その2-)を視聴した後、演習を行う。	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護形態機能学:筋・骨格系について、「動く」ことに関する筋肉・骨・関節の名称、位置と構造、各機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。 ・Google Classroom:フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示したフィジカルアセスメント技術「関節可動域(ROM)の測定」の技術手順書を読んでおく。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習記録の整理と振り返り ・Google Classroom:フィジカルアセスメント技術演習に提示してある学習課題をダウンロードし、課題に取り組み、学修ポートフォリオに綴じておく。 	<p>【予習】</p> <p>100分</p> <p>【復習】</p> <p>100分</p>
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				

20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	看護形態機能学1・2			
テキスト	有田清子、ほか著(2019):系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学[2] 基礎看護技術1(医学書院)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>参考図書として、以下の書籍を推奨します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山内豊明著「フィジカルアセスメントガイドブックー目と手と耳でここまでわかる」(医学書院) 2. 大久保暢子編「日常生活行動からみるヘルスアセスメントー看護形態機能学の枠組みを用いて」(日本看護協会出版会) 3. 小野田千恵子監修「実践！フィジカルアセスメントー看護者としての基礎技術ー改定第3版」(金原出版) 4. 村上美好監修「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント」(インターメディカ) 5. 松尾ミヨコ・志自岐康子・城生弘美編「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学2 ヘルスアセスメント」(メディカ出版) 6. 坂井建雄・岡田隆夫著「系統看護学講座 基礎専門① 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」(医学書院) 			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>本授業では、看護の対象を観察するために必要なバイタルサインの測定技術やフィジカルアセスメント技術の習得を目指します。</p> <p>コロナ禍の今、限られた時間・条件・環境ではありますが、看護者として備えるべき確かな観察技術を身につけることができるように、各自、主体的学習者としての自覚をもって、ここで学んだ知識・技術の定着と習熟に努めてください。</p>			
達成度評価に関するコメント	<p>本授業の課題達成度は、筆記試験(60%)、「その他」に位置づけた実技試験(20%)、課題レポート(10%)、および授業への取り組みの成果(学習ポートフォリオ・提出物など:10%)により総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験(60%)では、看護学科 DP1【知識・理解】のうちの DP1-2「看護実践に必要な基本的な知識を修得している。」を重点評価項目として評価する。 2. 実技試験(20%)では、看護学科 DP4【態度】のうちの DP4-2「根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。」を重点評価項目として評価する。 3. 課題レポート(10%)では、看護学科 DP2【思考・判断】のうちの DP2-1「健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考できる。」を重点評価項目として評価する。 4. 学習ポートフォリオなど、レポート外の提出物(10%)では、日頃の学習成果として、看護学科 DP1【知識・理解】のうちの DP1-2「看護実践に必要な基本的な知識を修得している。」を重点評価項目として評価する。 			

